



昇仙峡までのアクセス
 ●電車でお越しの場合/JR甲府駅南口からタクシー(車)で長澤橋まで約30分/JR甲府駅南口4番乗り場からバスで昇仙峡約30分
 ●お車でお越しの場合/甲府昭和Cから長澤橋まで約30分



昇仙峡一帯の地質と渓谷美、信仰と神社をはじめ文化財23件で構成される輝きのストーリーが認定されました。
「甲州の匠の源流・御嶽昇仙峡」
 ～水晶の鼓動が導いた信仰と技、そして先進技術へ～

構成文化財 [所在地] ●甲府市 ●甲斐市
 構成文化財の説明は右記のQRコードから

1【御嶽昇仙峡】 みたけしよせんきょう

2【燕岩岩脈】 うづつばいさん

3【金峰山五丈岩】 きんぷさんごじょういわ

4【能面】 のうめん

5【住吉時絵手箱・家紋散時絵手箱】 すみよしまゐてびら / かもんちまゐてびら

6【筏散時絵鼓胴・武器散時絵鼓胴】 ふかちまゐてぶどう / ぶくちらしまゐてぶどう

7【金櫻神社大々神楽付面と衣装】 かなやのうたごしらえ

8【旧金櫻神社石鳥居】 かなやのうたごしらえ

9【御嶽古道(亀沢)の石造物群】 みたけのちんげい

10【御嶽古道】 みたけのちんげい

11【旧羅漢寺の遺構】 せうろくわんじ

12【木造五百羅漢像】 もくぞうごひゃくらかんざう

13【住吉時絵手箱・家紋散時絵手箱】 すみよしまゐてびら / かもんちまゐてびら

14【御嶽道祖神】 みたけどうそじん

15【金櫻神社撰社・白山社】 かなやのうたごしらえ / しやうさんしゃ

16【長田門右衛門顕彰碑】 おさだえんもんけんしやうひ

17【金櫻神社の御神宝】 かなやのうたごしらえ

18【塩澤寺地藏堂】 えんたくじじやうどう

19【湯谷神社】 とうやじんじゃ

20【平瀬浄水場 登録文化財6件】 へいせじやうすいじやう

21【黒平の能三番】 くろへいのみさんぱん

22【炭焼窯跡】 すみやきかまあと

23【白輿】 しろこし

昇仙峡 地域活性化推進協議会
 〒400-8585
 甲府市丸の内一丁目 18 番 1 号
 電話番号：055-237-5702

※見学の際は、事前連絡が必要となります。
 TEL：055-277-3727(常設寺)



甲州の匠の源流

御嶽昇仙峡

～水晶の鼓動が導いた信仰と技、そして先進技術へ～
 MITAKE-SHOSENKYO
 日本遺産



山梨県甲府市・甲斐市

甲州の匠の源流・御嶽昇仙峡

～水晶の鼓動が導いた信仰と技、そして先進技術へ～

紡がれる、輝きのストーリー



新緑の仙娥滝

日本を代表する水晶の一大産地だった、昇仙峡一帯。周辺に数多く存在した鉱山では、鉱床内を照らすほどの水晶の輝きがあったという。

約一千万年前頃に起きたとみられる地殻の大変動が生み出した花こう岩の石英から結晶される六角柱の水晶は、その昔には、「水精」と表記された。まさに水から生まれたようなその美しさ、清冽な水源地で採れる神秘、その姿は、信仰にも結びついていった。

昇仙峡の奥に鎮座する金櫻神社、さらに本宮にあたる金峰山(別名「甲州御嶽山」)の山頂には、花こう岩の御神体の五丈岩が白く輝き、水晶玉や土馬など水信仰にまつわる遺物が出土する。

長い年月をかけて川の流れることによって削られた花こう岩は、日本一と称される溪谷美をつくりあげ、ここから水晶が産出されたことにより、世界に名だたる研磨技術と甲州水晶貴石細工が育ち、さらに日本一のジュエリーの街へと発展した。

そして現代、その匠の技は、電子機器など最先端の分野で応用され、私たちの生活を支えている。

信仰と水晶の源流

金櫻神社と金峰山



金櫻神社

金櫻神社は、御嶽昇仙峡の溪谷を登りつめた富士山を仰ぐ霊地に鎮座し、約2,000年前に創建された金峰山山頂の本宮に対し、約1,500年前、里宮として開山。古くは蔵王権現

と呼ばれ、金峰山信仰の中心地として繁栄した。その後も武田氏をはじめ代々領主から厚く信仰され、ゆかりの宝物を多数所蔵する。

昇仙峡をふくむ金峰山麓の花こう岩体は優れた水晶の一大産地であり、花こう岩の御神体「五丈岩」や御神宝「火の玉・水の玉」など、水晶と信仰の奥深いかかわりが推測される。遥拝所からは、富士山と金峰山を望むことができる。

甲州の匠の原点

水晶研磨の流れは御嶽昇仙峡から甲府へ

当初、水晶は六角柱の原石のまま置物として珍重されていたが、江戸時代に、京都の玉屋弥助が神社の神官たちに水晶の磨き方を伝授し、水晶細工は御嶽の特産品となる。江戸時代の末ごろには、水晶加工の中心地が御嶽から甲府へ、荒川の流れるに沿って南下することになる。

削る、磨く、という甲州の匠の源流は、もっと古くは、縄文石器時代の水晶の「矢じり」にまでさかのぼる。主要な材料だった黒曜石に混じり水晶の「矢じり」が多く発見されているのは、水晶の産地として、いかに恵まれた土地柄であるかを物語っている。



日本式双晶(山梨大学所蔵)



金櫻神社の御神宝

昇仙峡を開拓

御嶽新道と長田円右衛門の物語



竹邨三陽筆 甲斐御嶽新道・御坂図 嘉永5年(山梨県立博物館所蔵)

その昔、花こう岩の浸食が作り出した昇仙峡一帯は、谷深く閉ざされ、険しい山道に金峰山信仰の修験者だけが往来する仙境の地だった。江戸時代後期、地元猪狩村の農民「長田円右衛門」たちは、甲府城下への往来に苦勞していた地元民のため、溪流沿いに新道の開削に立ち上がり、通算約9年の歳月をかけ、天保14年(1843)、新道ができあがった。

もとは生活のための目的だったが、開削の結果、昇仙峡に眠る類まれなる景勝が明らかとなり、「御嶽新道」は観光道路としても一躍注目されるようになったのである。



昇仙峡の遊歩道にある長田円右衛門の碑



新道開削工事でできた石門

花こう岩と源流の恩恵

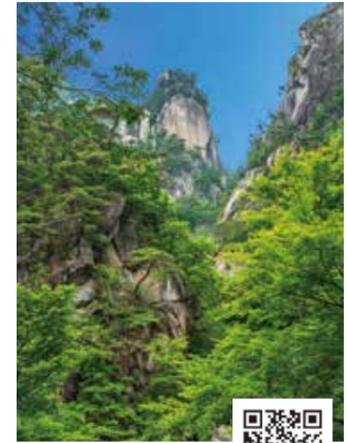
水晶の聖地に、日本一を誇る溪谷美

長田円右衛門たちが心血を注いで開削を行った「御嶽新道」が「御嶽昇仙峡」として全国にその名が広まったのは、大正11年10月の皇太子殿下(昭和天皇)の行啓がきっかけだった。昭和25年には毎日新聞社の全国名勝地百選で溪谷部門1位に入選し、「日本一の溪谷美」の冠をいただいた。昭和28年に国の特別名勝となった。



板敷溪谷 大滝

花こう岩が作る迫力の断崖、清冽な流れに削られた奇岩の連なりは、秘境と呼ぶにふさわしい絶景。長潭橋から仙娥滝まで約5km、溪流沿いの遊歩道から、覚門峰をはじめ自然が創り出した雄大な景色を間近に楽しめる。現在、水晶の採掘は無いものの、水晶宝石博物館や土産店が立ち並び水晶発祥の聖地となっている。



新緑の覚門峰のドローン映像が見られます▶



昭和初期の「御嶽昇仙峡絵葉書」(山梨県立博物館所蔵)



長潭橋の紅葉

現代に紡がれる、匠の技

ジュエリーに、最先端機器に

昇仙峡一帯での水晶の採掘は、明治期に最盛期を迎え、明治後期に水害による治山治水の制限がされるまで、県産水晶の黄金期は続いた。その後も原石を海外に求め、研磨の技術の伝統は受け継がれ、工芸品から芸術作品へ、水晶加工から宝飾全般、貴金属加工へ、発展拡大した。また人工水晶の製造技術も山梨で生まれ、現在、水晶研磨を礎に発展した技術はスマートフォンなど精密機器にも生かされ、ハイテクの進歩に欠かせぬ存在となった。そして今、甲府を中心に国内屈指のジュエリー産地が築かれ、全国唯一の公立の「山梨県立宝石美術専門学校」では宝飾業を支える新しい世代が育成され、無限の輝きの可能性を秘めた「山梨ジュエリー」が注目されている。



SAWウエーハ研磨工程



新しい感性から生み出されたジュエリー

